

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

ニュースの項目

新しい年を迎えて

豊平川雁来健康公園 `冬ごもり`

アメリカの流域管理調査について

「子どもの水辺」東京連絡会議の開催

「久慈川河川環境現地検討会」行われる

「子どもの水辺北海道地域拠点センター」
概成

「鬼怒川らしい水環境を再生するための提言
～よみがえれ 鬼怒の清流～」まとまる！

きのくに川の日 '03 絵画コンクールについて

架橋に伴うヒメボタルへの影響評価について

多摩川シンポジウム「多摩川を歩く」
～下丸子・六郷編～

河川伝統工法導入ガイドライン（案）の作成
について

「新しい市民連携」に向けた
米国防災市民連携調査

相模川 川づくりのための土砂環境整備検討会
開催される

平成 15 年度 新規助成事業選定される
～河川美化・緑化調査研究助成～

「夢の郷プロジェクト」の展開について

河川整備基金助成事業募集中
～締め切りは、2月16日（月）です～

米国陸軍工兵隊エンジニア・マニュアル
調査について

河川整備基金にご協力ありがとうございます
－300億円をめざして造成を続けております。－

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in
広島が開催されました

神戸景観まちなみ賞の受賞について

財団の体制

オオサンショウウオ生息実態調査について

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

新しい年を迎えて

新年を迎えてはや20日、当財団は大忙しの毎日です。

私は、和里田義雄さんのあとを受け昨年の12月に理事長に就任いたしました。何卒よろしく願います。

さて、当財団は昭和50年に発足以来、来年には満30年の節目を迎えようとしています。財団設立のきっかけの一つに、東京オリンピックの成績の不振があり、この打開のために国民の体力増進を旗印に河川敷地を運動公園として利用しようという動きがあったなどということを知る人も今では少なくなりましたが（現在でも河川の公園やゴルフ場の管理等は、当財団の重要業務の一つ）、お蔭様で当財団の業務は大きく拡充されてきています。

昭和63年に、河川整備基金が造成されその運用を当財団が手がけることとなったのは、ご案内のとおりですが、これまでに調査研究や国民的啓発運動等に対して4600件を超える助成を行い成果をあげてきました。

平成4年には、河川環境総合研究所を開設し、全国的な行政課題から、河川ごとの課題まできめ細かく対応できるよう順次体制が拡充強化されてきました。

河川の美化愛護に関する広報活動は、財団設立当

初からのテーマの一つですが、これが現在では、財団からの一方通行でなくNPCや学校の先生・生徒を巻き込んだ双方向の活動に大きく発展しています。「総合



的な学習」の時間における河川を題材とした活動に対する河川整備基金を活用した助成や、当財団に併設された「子供の水辺サポートセンター」は、全国から熱い視線を集めています。まだ聞きなれない名前ですが、当財団がロイヤリティーを取得している「プロジェクトWET(Water Education for Teachers)」も、これからこうした活動に大きな役割を果たすこととなります。

当財団の調査研究は、国内だけにとどまっていません。米国陸軍工兵隊、加州緊急支援局、前述のプロジェクトWETなど欧米の政府機関や市民団体との研究協力を進めています。

私達は、これからも初心に帰って、新しい課題も見据えながら貪欲に業務に取り組んでまいります。皆様の一層のお力添えをお願いいたします。

財団法人 河川環境管理財団
理事長 鈴木 藤一郎

アメリカの流域管理調査について

わが国における今後の流域管理や水環境管理に役立てることを目的に、当財団にて調査団を組織し、昨年10月6日～16日までアメリカにおいて現地調査を実施しました。調査団は「Virginia Water Research Symposium 2003」への参加やヴァージニア工科大学および米国環境保護庁(EPA)とのミーティングを通じて、アメリカ合衆国やヴァージニア州における水質管理の状況やTMDLプログラム(許容できる汚濁負荷総量の計画)の実践例、流域や水環境に関する情報の提供状況などについて貴重な知見を得ることができました。

アメリカでは親水や生物保全の観点から、大腸菌や底質(Sediment)の水質管理や面源負荷削減に取り組んでいること、WebGISシステムを用いた水環境情報サービスを進めていることなど日本の今後の水環境行政の参考になると思います。調査の成果は報告書として近日まとまる予定です。(担当:研究第2部)

「久慈川河川環境現地検討会」 行われる

久慈川河川整備方針・河川整備計画の策定へ向けた作業の一環として、12月1日に「久慈川河川環境現地検討会」が久慈川に精通している委員8名の参加を得て実施されました。まず日立市内の会場にて、主催者である常陸河川国道事務所から設立趣旨及び資料の説明の後、栗原床固、水害防備林や辰ノ口堰など、久慈川における河川環境を考える上でのポイントの視察が行われました。その後検討会場にて、委員から久慈川の河川環境について多数の活発な意見が述べられました。今回の検討会における委員の皆様からの意見を踏まえ、久慈川の川づくりへ向けた検討が今後進められる予定です。(担当:研究第3部)



「鬼怒川らしい水環境を再生するための 提言～よみがえれ 鬼怒の清流～」 まとまる!

鬼怒川は、瀬戸合峡や龍王峡に代表される山岳渓谷美に富んだ清流やカワラノギク等の礫河原特有の植物が生息するなど自然豊かな河川であります。近年、ダム建設や砂利採取による河道形態の変化、水力発電や農業取水による河道の無水・減水区間の発生など、

鬼怒川の水環境は必ずしも良好とは言えない状況であります。

このような鬼怒川水環境を本来の姿に再生することを目的に、平成15年4月に学識経験者、流域のNPOやマスメディア及び関係行政からなる「鬼怒川水環境再生委員会」(委員長:須賀如川宇都宮大学名誉教授)を設置し、約7ヶ月にわたり委員会4回・現地調査3回及びアンケート調査等を実施し議論を重ねてきました。

そして、「本来の鬼怒川らしさ」を取り戻すため、「鬼怒川にふさわしい水量の確保」「流水管理の仕組みづくり」「住民・事業者・行政が協働による川づくりの推進」など住民、事業者、行政の自覚と責任のもと、流域全体として連携し実施していく九つの施策を盛り込んだ提言をとりまとめ、昨年12月にその提言書を記者発表するとともに、会見後、須賀委員長より小林下館河川事務所長に提言書が手渡されました。

(担当:研究第4部)

架橋に伴うヒメボタルへの影響評価 について



陸生巻貝と共に確認されたヒメボタル幼生

淀川水系桂川の最下流部付近に高速道路および一般国道の架橋があり、その直下にある竹林群においてヒメボタルの生息が地元住民によって平成15年5月に確認され、地元紙でも報じられました。ヒメボタルの特徴としては、幼虫の餌料がキセルガイやオカチョウジガイといった陸生巻貝であること、成虫は点滅発光して繁殖行動を起こすことが知られています。このため、人工的な照明によってヒメボタルの繁殖にどの程度の影響がおよぶかについて調査・評価を行っています。

まず、対象となる竹林群周縁において陸生巻貝の生息確認を行った結果、全域で生息を確認できたため、広い範囲でヒメボタルの生息が考えられました。

次に、道路架橋部において路面照明がヒメボタルの生息域と考えられる竹林部周縁にどの程度の光量として到達しているか、どの程度の範囲で光の影響があるのか、という光に対する保全対策の必要性を判断するための調査を現在実施中です。

なお、光によるヒメボタル成虫への影響が見られるのは光の影響を受け始めてから2年後以降と考えられるため、今後はヒメボタル成虫の詳細な出現場所の把握を行い、光に関する調査結果と照らし合わせ、橋梁の路面照明や通過車両ヘッドライトの光がヒメボタルの生息に影響を及ぼす可能性がある場合には、光に対する保全対策を検討し、道路管理者および河川管理者に提案していきます。(担当:大阪研究所)

河川伝統工法導入ガイドライン(案)の作成について

平成12年に河川審議会から「生活・文化を含めた河川伝統工法の継承と発展 川における伝統技術の活用はいかにあるべきか」が答申され、その中で、河川工学的側面、環境保全との関連、治水計画での位置付け、維持管理の特性などの幅広い観点から再評価を行うことが課題であると認識されています。

このような背景から、平成12年度より伝統工法導入ガイドライン(案)の作成を目的として全国的な事例調査を実施し、伝統工法導入の評価方法、今後の多自然型工法などへの伝統工法導入の考え方になどについて、幅広い観点から検討を行ってきました。

本年度は、「伝統工法導入ガイドライン素案」に基づき、十勝川水系札内川を対象にケーススタディを行い、ガイドライン素案の内容を検証、補足するとともに「伝統工法導入ガイドライン(案)」の作成を行うこととしております。(担当：北海道事務所)



大聖牛の組み立て完成

相模川 川づくりのための土砂環境整備検討会 開催される

昨年5月に相模川流域土砂管理懇談会によりとりまとめられた「相模川の健全な土砂環境をめざして」の提言を受けて、その取り組みの実施方針の提案及びその対策の検証を行うとともに、今後の土砂環境改善に向けた具体的な方策について検討すべく標記検討会が設立及び開催されました。

本検討会は、市民、学識経験者、漁協・水道事業者等関係者および行政機関から構成され、神奈川県県土整備部河港課、神奈川県企業庁利水局利水課及び国土交通省京浜河川事務所が事務局となっています。

12月11日に第1回目の会合が都内において、委員2名中2名(代理出席含む)の参加を得て開催されました。冒頭、座長に砂田憲吾山梨大学大学院教授を互選し、これまでの経過報告、対策の実施計画(案)及び対策実施に伴うモニタリング計画(案)について事務局から説明が行われ、委員の皆様から質疑応答が行われました。

(担当：研究第3部)

「夢の郷プロジェクト」の展開について



木曾三川下流域は、古くから水害に苦しめられてきた地域です。そのため、オランダ人技師デ・レーケの指導による明治改修、伊勢湾台風災害復旧事業、地盤沈下対策のための高潮堤防の補強事業など、大規模な事業が実施されてきました。

こうした中、地域から「水と闘う水郷地帯」というイメージから「魅力ある水郷地帯づくり」に取り組みたいという新たな夢を追求する動きが出てきています。この夢のテーマとして「自然再生」、「治水研究」、「舟運再生」など5つのテーマが選ばれ、地域住民約200人が夢のイメージづくりのための活動をしています。

この活動は、木曾川下流河川事務所管内で実施されており、当財団も、地域のみなさんの夢づくりのお手伝いをしています。

写真は、自然再生部会のみなさんが木曾三川に生育しているヨシを材料にして作った「ヨシ舟」です。詳細については、ホームページをご覧ください。

(<http://www.yumenosato.jp/>)

(担当：名古屋事務所)

米国陸軍工兵隊エンジニア・マニュアル調査について

(財)河川環境管理財団では、米国陸軍工兵隊において作成され公表されている各種のエンジニア・マニュアルのうち、1992年に発表された「河川水理学」についてのエンジニア・マニュアルを今般日本語に翻訳・増刷して普及に努めたところですが、その内容がかなりの多岐に亘っており、高度なものとなっていることから、どのような状況を経て構築されたのか、現場への普及方法はどのようになっているのか、またこの中で触れられていない汽水域の問題についての状況等について調査し、今後の河川計画や河川管理に役立てることを目的として、平成15年11月11日～11月19日まで米国陸軍工兵隊の様々な機関を訪問し調査する機会を得て、参考となる情報を収集しました。調査の成果は報告書として近々まとまる予定です。

(財)河川環境管理財団理事 山本雅史

研究第2部長 岸田弘之

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in広島が開催されました



『世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 広島』が、「水じゃけん広島！～結べ！水ネットワーク～」をキャッチフレーズに、広島県太田川上流の加計町にある「川・森・文化・交流センター」を中心として10月11日（土）から13日（月）の3日間の日程で開催されました。

全国から54人の中学生・高校生の子どもたちと11人のファシリテーターが、大会の企画立案を担当した「子ども企画委員会」の意見をもとに、大会宣言文にあるような6つのテーマに沿った分科会、最終日に全体会が行われ、各分科会の発表と大会の成果として「水じゃけん広島！宣言」が取りまとめられました。

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in広島水じゃけん広島！宣言

2003年3月の32カ国から109人の子どもたちが集まり、水問題を話しあった「世界子ども水フォーラム」をふまえて、日本の子どもたちが水問題を学び、話し合う機会がつけられました。それが、全国各地からたくさんの中・高校生が広島県、太田川上流の加計町に集まった「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in広島」です。私たち参加者は、この土地にちなんだ体験をしたり、様々な説明をきいたりし、また「川遊び」、「水質」、「流域」、「水利用」、「川に学ぶ」、「いい川づくり」の6つの分科会に分かれて話し合いをしました。

分科会テーマや住んでいる地域の違いを越えて、私たちが水の問題について共通して大切だと考えたのは次のことです。

安全で自然いっぱいの親しみやすい水辺を増やすこと。

水辺に親しみ、知識を増やす機会をつくること。

環境問題に積極的にとりくむ人と、危機感がない人との差を埋めていくこと。

川の上流と下流、田舎と都市部の相互理解を深めていくこと。

様々な人と水問題解決のための情報交換をしていくこと。

私たち子どもは次のことを心がけます。

水を大切にし、川を汚しません。ゴミ拾いもします。

環境や水についての理解を深めます。

自発的に水の大切さをまわりの人に伝えます。

子どもたちのグループやネットワークをつくります。

子どもたちの体験や交流活動を広めるために、大人に協力を求めます。

そのために、NGOや行政へ次のことを望みます。

都市部でも緑や生き物が多く、子どもが遊べる川を増やすこと。

コンクリート護岸などの無機質な構造物に緑をよみがえらせること。

学校や地域で、親子が共に体験し学ぶ場をつくること。

都市と田舎の交流や、環境教育のコーディネーターや後継者を育成すること。

NGO、行政、企業とのパートナーシップの強化をすること。

マスメディア、インターネットなどを利用し、積極的に情報発信をすること。

全国、世界の子どもが集まるフォーラムを継続して開催すること。

最後に、私たちは「平和」を強く願います。3月のフォーラムは、アメリカ合衆国によるイラク爆撃と重なりました。そしてこのフォローアップ大会は、原子爆弾が投下された広島での開催です。太田川は被爆者が水を求めた川でもあります。私たちは、平和な世界をつくっていくために、今回、広島で自分が体験したことを、より深め、そして人々に伝えてゆくことを宣言します。
2003年 10月 13日

大会を終わって

3月の世界水フォーラムを受けて、日本の子どもたちで水に係わる多くの課題や問題について意見交換や交流をしようという要望や意見を踏まえて、地元広島市を中心とした多くの市民団体や地元加計町の皆さんの支援を受け、素晴らしい内容の大会を開催することが出来ました。

大会に参加した子どもたちが、広島での体験をそれぞれの学校や地域にもどり、まわりの友達や大人たちに伝え、活動の環を広げていってくれることを望んでおりますが、分科会での様子や宣言文をまとめるときの議論の様子などから、十分期待できるものと確信しております。

私たちとしても、子どもたちの純粋な意見や要望を十分取り入れながら、子どもたちを主体とした活動を世代間のギャップというハードルを乗り越えながら、いかにサポートしていけばいいのか、試行錯誤の状況の中で大会を進め無事に終わることが出来ました。関係された皆様方の絶大なるご支援ご協力に感謝申し上げる次第です。

2回目となる本年は東北地区で開催すべく準備を進めているところですが、去年の経験を生かし、子どもたちの活動の環がさらに広がり、発展していけるよう考えておりますので、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。
(担当：研究第1部)

神戸景観まちなみ賞の受賞について



阪神疏水モデル実験の「住吉山田地区」の水車が、^{なだめ}「灘目の水車」として神戸景観まちなみ賞を受賞しました。この賞は、神戸らしい優れた都市景観に贈られる神戸景観・ポイント賞に今年から特別賞として新設されたもので、地域が一体となってまちづくり活動を行うことにより形成された美しいまちなみに対して贈られるものです。

「灘目の水車」の受賞は、水車の復元により地域の水文化を継承しようとする取り組みが評価されたとのこと。大阪研究所では、同地区において行政、住民によるワークショップの運営や整備計画の作成を行いました。
(担当：大阪研究所)

オオサンショウウオ生息実態調査について



捕獲されたオオサンショウウオ（体長75cm）



放流する様子

淀川水系桂川の嵯峨地区においては根固の補修工事が予定されていますが、一方でオオサンショウウオ（国指定特別天然記念物）の生息の可能性があることが指摘されています。前回発行の財団ニュース（NO.16号）にて、「嵯峨地区オオサンショウウオ生息実態調査検討会」が発足したことを紹介しましたが、その提言を受けて、潜水目視とトラップ調査を9月～10月にかけて4回実施しました。その結果、体長が60cm～87cmのオオサンショウウオが1匹確認されました。これまでオオサンショウウオの生息は桂川でも支川上流域や山地溪流部で知られていましたが、桂川の中流域でまとまった数が確認されたことは初めてでした。

今後は、冬期に繁殖しているかどうかを確認する幼生調査を行うとともに、オオサンショウウオの生息できる条件を考慮した根固工補修方法を検討していく予定です。
(担当：大阪研究所)

豊平川雁来健康公園 `冬ごもり`

当公園は、昭和59年10月に河川公園として開園以来、これまでに延べ110万人と多くの皆様にご利用いただいています。今年度も約6万5千人の利用者があり、健康づくり等の施設として市民の皆様から親しまれ喜ばれているところです。

北海道では積雪のため、開園期間が4月から11月までという制約があり、毎年春先には融雪剤の散布や除雪、秋には芝の雪腐れ病対策や樹木の冬囲い、防球ネットの取り外し等多くの手間を必要としています。今年も施設の充実を図り、一層のサービス向上に努めて参りますので、ご利用ご支援のほどよろしくお願いいたします。
(担当：北海道事務所)



(H.15.11)

「子どもの水辺」 東京連絡会議の開催

下記の概要で実施します。

記

- *日 時 平成16年2月19日(木) 13:00~17:30
- *場 所 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター渋谷区神園町3番1号、センター棟センターホール他
- *定 員 30名
- *参加費 無料
- *参加対象 東京で「子どもの水辺」や水辺での環境学習や体験活動に関係する方や興味をお持ちの方。市民団体や学校教育・社会教育・行政関係者・その他、どんなお立場でも大歓迎です。
- *主 催 文部科学省、国土交通省、環境省、東京都、
(財)河川環境管理財団
- *後 援 農林水産省(予定)

会議スケジュール(予定)

1. 国(各省)・都の取り組みの紹介
2. 子どもの水辺サポートセンターの紹介
3. 活動事例の紹介
4. 各河川や地域単位による分科会
5. 全体会議(各分科会からの報告など)

詳細は、「子どもの水辺サポートセンター」のホームページをご覧ください。
<http://www.mi.zube-support-center.org>

(担当：研究第1部)

「子どもの水辺

北海道地域拠点センター」概成



北海道エールセンター(呼称)については、(財)日本宝くじ協会の助成を得て、2月末の完成を目指し鋭意工事が進められております。

本体躯体工事(木造2階建て 359㎡)は写真のとおり概成し、現在、施設周辺整備工事(四阿・旗ポール・屋外看板等)が行われています。

本体施設には展望台が設けられており、南面眼下に札内川が広がり、北面遠くに日高山脈が望めます。

なお、同センターの本格運用は、4月1日からであり、それまでに展示・研修室備品及び研修資機材が吟味され調達されます。
(担当：北海道事務所)

きのくに川の日'03 絵画コンクール について



和歌山県では、5月29日を「きのくに川の日」と定め、県民に河川愛護思想を深め、河川美化の心を持っていただくことを目的に諸活動を実施しており、その一環として県内の小中学生を対象に開催している絵画コンクールも今回で5回となりました。

今回の募集テーマは「私の川、みんなの川、和歌山の川」とし、数多く描かれた河川は、紀の川(33作品)、有田川(127作品)、貴志川(84作品)でした。応募総数は1600点を超え、昨年(平成15年)の3倍にあたる飛躍的な応募数の増加であったため、審査は平成15年10月14、15日の2日間にわたって行われました。

厳正な審査の結果、小学1・2年生の部、小学3・

4年生の部、小学5・6年生の部、中学生の部の各部門から、最優秀賞1作品、優秀賞5作品、入選10作品ずつが選ばれ、和歌山県知事からの表彰状が授与されました。これらの作品は、11月21日(金)～24日(月)にかけて、和歌山マリーナシティ「わかやま館」において展示され、多くの家族連れ等にぎわいました。
(担当：大阪研究所)

多摩川シンポジウム「多摩川を歩く」 ～下丸子・六郷編～



昭和61年7月の多摩川サミットを契機に開催された多摩川シンポジウムも今回で19回を数えました。今回は多摩川下流域の川崎市と大田区を会場に「多摩川の自然と歴史文化を学ぶ」として、二人の地域史研究家を案内役に迎え、京浜河川事務所・川崎市・大田区の協力のもと11月15日(土)に、抽選で選ばれた120名の市民とともに実施しました。

午前の部では、まず東急多摩川線の下丸子駅を出発、平賀源内の戯作「神霊矢口渡」でも有名な新田義興の伝説を辿るコースで、新田神社を始めとする多摩川にまつわる寺社が現在の河道よりかなり北側にあることから、かつての多摩川の流がこの付近だった、といった案内役からの説明に、参加者一同熱心に耳を傾けていました。

午後の部は多摩川大橋の緊急用船着場からスタート。多摩川の歴史に加え、京浜河川事務所から震災時などに河川が果たす役割や、岸辺の散策路、生態系保持空間などの説明を頂き、現代の河川と、人々の生活の結びつきを改めて感じていただくよい機会となりました。

その後、会場を川崎市立労働会館に移し、意見交換会が開催され、有意義な一日となりました。

(担当：東京事務所)

「新しい市民連携」に向けた 米国防災市民連携調査

河川整備水準の向上とともに洪水等の災害は軽減傾向にありますが、国内で毎年のように災害が発生しています。洪水災害時の危機管理について見ると、水防団の高齢化、組織力の低下などから沿川住民等を中心とした市民の支援・協力が得られる体制づくりや組織づくりが課題となっています。

このため、昨年11月30日～12月7日にかけて歴史的・地理的に水害・地震・山火事などの自然災害の発生が多く、災害時の対策や救助技術などの危機管理体制が民間のボランティア団体も含め高い水準で整備されている米国カリフォルニア州のFEWA(連邦緊急事態管理庁)、OES(州政府の緊急事態管理局)、FCC(洪水制御センター)、SAR(民間救助団体)、IEC(民間訓練機関)など行政機関から民間団体まで広範な調査を行いました。

今後、この調査結果を踏まえ、「新しい市民連携のあり方」について有識者や関係者等を交えた研究会により検討を進めることとしています。

(研究第1部 吉野)

平成15年度 新規助成事業選定される

～河川美化・緑化調査研究助成～

河川敷のゴルフ場利用者からの寄付を原資とする、河川美化・緑化調査研究の平成15年度分については、昨年の12月24日行われた「第18回河川美化・緑化調査研究助成審査委員会」において、応募総数39件のなかから次の4件が選定されました。

淀川水系におけるカヤネズミとその生息場所としての植生の保護

(大阪市立大学 畠 佐代子 大学院生)

在来タンポポの保全における河川堤防の意義

～市民参加型調査による近畿の河川堤防での雑種タンポポ分布状況の把握～

(大阪市立大学 伊藤 明 助教授)

近畿地方の河川におけるパイカモの保全研究

(京都大学 瀬戸口 浩彰 助教授)

自然・社会環境を統合した流域景観マップの構築

(姫路工業大学 池田 啓 教授)

いずれも、これからの流域の生物圏に関連する意欲的な研究です。

関連情報についてはホームページをご覧ください。

(www.kasen.or.jp/kihu/annai/green.htm)

(担当：研究第 部)

河川整備基金助成事業募集中

～締め切りは、2月16日(月)です～

平成16年度河川整備基金助成事業の募集は、昨年
の12月20日から開始しています。募集要項、申請様式
は財団ホームページからダウンロードできます。なお、
平成16年度から調査・試験・研究で大学院生の博士
課程後期の方を助成対象者に、また、国民的啓発運動
の一般的助成で自然再生活動が追加になりました。

応募の申請書は、平成16年2月16日(月)まで
に必着となっています。それ以降のものは、受付けら
れませんので、締切日に注意してください。

なお、応募に関する問い合わせ及び提出先は、応募
案内に掲載されている部所をお願いします。

(担当：研究第 部)

河川整備基金にご協力ありがとうございます

— 300億円をめざして造成を続けております。 —

お陰様で、河川整備基金の造成は、平成15年4月か
ら12月までに約2千5百万円余のご寄附を頂き、12
月末で約280億1千万円余となっております。これも
一重に皆様方のご協力の賜と感謝しております。

基金は、皆様の幅広いご理解、ご協力を得て300億
円をめざして造成を続けております。今後とも、引き続
き、ご協力よろしくお願い申し上げます。

イベント等で募金箱が必要なときは、当財団にお申し
付け頂ければお送りさせていただきます。

なお、募金箱の募金の回収及び寄付金の送金につきまし
ては、ご連絡頂ければ、当財団から回収に伺い又は振込
用紙を送付させていただきます。(担当：総務部)

財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。
今後ともよろしくお願い致します。

理 事 長	鈴木 藤一郎 (12月就任)
専 務 理 事	藤 芳 素 生 (12月就任)
常 務 理 事	池 田 東 雄
理 事	仁 科 英 磨
理 事	山 本 雅 史
相 談 役	梅 野 康 行
研 究 顧 問	吉 川 秀 夫
研 究 顧 問	芦 田 和 男
研 究 顧 問	江 川 太 郎
研 究 顧 問	佐々木 寧
研 究 顧 問	山 口 甲
研 究 嘱 託	中 島 秀 雄
研 究 総 括 職	山 本 晃 一
技 術 参 与	佐 藤 和 明
総 務 部 長	松 下 寿 彦
企 画 調 整 部 長 (兼)	藤 芳 素 生
河川環境総合研究所長 (兼)	芦 田 和 男
研 究 第 1 部 長 (兼)	山 本 雅 史
研 究 第 2 部 長	岸 田 弘 之
研 究 第 3 部 長	赤 羽 忠 志
研 究 第 4 部 長	戸 谷 英 雄
大 阪 研 究 所 長 (兼)	芦 田 和 男
研 究 第 5 部 長	辻 山 正 甫
子どもの水辺サポートセンター長 (兼)	山 本 雅 史
東 京 事 務 所 長 (兼)	戸 谷 英 雄
北 海 道 事 務 所 長	吉 岡 紘 治
名 古 屋 事 務 所 長	奥 田 一 巳
大 阪 事 務 所 長	阪 本 信 弘

編集
発行



財団 法人 **河川環境管理財団**

編集事務局 03(3297)2617
<http://www.kasen.or.jp/>

本 部	〒104-0042 東京都中央区入船1-9-12 TEL 03-3297-2600 FAX 03-3297-2620 E-mail: info@kasen.or.jp
河川環境総合研究 所・東京事務所	TEL 03-3297-2644 FAX 03-3297-2677 E-mail: info@kasen.or.jp
子どもの水辺サポ ートセンター	TEL 03-3297-2608 FAX 03-3297-2609 http://www.mizube-support-center.org/ E-mail: msc@mizube-support-center.org
北 海 道 事 務 所	〒060-0061 札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル) TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953 http://www.kasen.or.jp/hokkaido/ E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

名 古 屋 事 務 所	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-3-10 TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627 http://www.kasen.or.jp/nagoya/ E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp
大 阪 事 務 所	〒570-0096 大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内) TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095 http://www2.kasen.or.jp/ E-mail: koheh@osakaj.kasen.or.jp
大 阪 研 究 所	〒540-0008 大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F) TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118 E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp